

年度	2026 年度
試験日	2026 年 2 月 19 日 (木)
学部	教育学部
入試制度	一般選抜 (C 方式)
試験科目	総合問題 (複合文化学科)

出題意図 及び 解答例 (解答のポイント)

【注意事項】

※公開する解答例には、別解がある場合があります。

※お問い合わせいただいた内容は本学で確認し、必要がある場合には、入学センターWebサイトに掲載いたします。個別に回答することはいたしません。

※お問い合わせ先：早稲田大学入学センター nyusi@list.waseda.jp

■出題意図

早稲田大学教育学部の一般選抜では、①教科に関する確かな基礎学力と②「教える・伝える力」の基盤となる高い論理的思考能力と言語運用能力に関する能力を評価・判定します。

総合問題 (複合文化学科) では、複数の資料を読み解いたうえで、自分の考えを論理的に述べる論述問題とします。

複合文化学科では、人間にかかわる事象全般を広く<文化>と捉えたうえで、それを多元的・多面的に考察する力を育成することを大きな柱としています。総合問題では、そのために必要な基礎的学力を測ります。

■解答例 (解答のポイント)

本問題は、歴史的史料の扱い、歴史の展示、博物館の変化や役割といった問題系に関わる内容をもった3つの資料を読解することにより、博物館の機能を通じて文化と歴史について考察させ、文献の理解力、ならびにそれを論理的で明快な文章で表現する能力を有するか否かを測定することを意図しています。

問題1は、文章の主旨を要約する能力をみる問題です。【資料1】における、様々なアクターが民具の多様な価値を見出して活用している「緩やかな保存」についてその内容を理解し、著者の議論を過不足なく要約できるかを問いました。

問題2も、文章の主張内容、特に著者の意図を的確に把握できるかどうかを問うた問題です。

【資料2】において、広島平和記念資料館のリニューアルにおいて「人への被害」を主題としたことがまず読み取れており、失われた人々の暮らしや被爆者など、人に関わる展示がいかに工夫されていたかを事例を挙げて要約することが求められます。

問題3は、英文による学術的対話の読解力を考查する問題です。語彙は比較的平易であり、文章の構造も明快ですが、文章全体との関わりで内容を理解し、的確な日本語で表現する能力が必要です。

問題4は、抽象的な事柄を扱った英文の論旨を正確につかみ、簡潔な日本語で要約説明する能力を問うています。

問題5は、3つの資料を読み、各々の文章に共通する博物館の新たな展示方法や役割という主題を的確にふまえたうえで、自らの見解を論理的かつ明晰な文章で表現する能力が問われる設問です。